

記念基調講演会

少林寺拳法から学ぶ 自らの生き方について



「ちぎり絵(花火)」

(県央福祉会メールブルー鵜沼) 青木 八重子さん 三井 閑代さん 大澤 芙美江さん
中山 松子さん 坂本 圖志さん 松田 澄枝さん 和田 佳文さん 小林 優子さん

令和2年8月1日(土) 13:00~14:30

県央福祉会
法人会議室

主催 NPO法人成年後見センター かけはし



令和2年度かけはしWAM助成
研修会事業

少林寺拳法 正範士八段

小川 肇 講演会

～記念基調講演～

少林寺拳法

から学ぶ

自らの生き方

について

令和2年 8月1日(土)

13:00～14:30

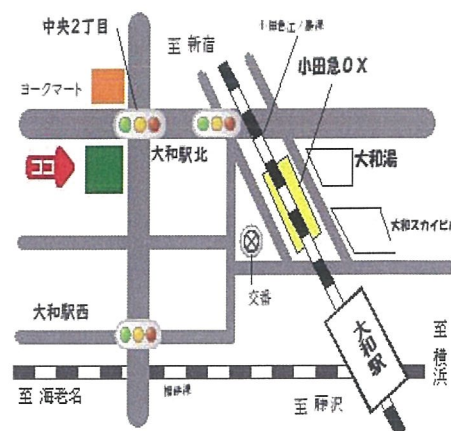
(12:30 開場)

会場：県央福祉会 法人会議室
(神奈川県大和市中心 2-3-19
ウエストビルディング 4階)

アクセス：小田急江ノ島線・相鉄
線「大和駅」下車 北口徒歩 3分

定員：最大18名

参加費：500円



少林寺拳法 正範士八段 / 金剛禅総本山少林寺 少法師
神奈川県少林寺拳法連盟 顧問兼専務理事
横浜地方法務局人権擁護委員
社会福祉法人県央福祉会 後援会会長 / NPO 法人成年後見センター
かけはし 代表理事

前回感動を呼んだ小川氏の講演。

自分の人生を生きる事に誇りを持てるような、そして聴き終わった後には心が浄化されるような・・・小川氏の温かい語りをお届けします！

主催：NPO 法人成年後見センターかけはし

【お申込み・お問い合わせ】かけはし WAM 助成事業事務局担当：山賀・大場(090-2484-5426)

〒242-0022 神奈川県大和市柳橋 2-1-26 ウイングシバタ 102

TEL:046-244-5551/FAX:046-244-5534 E-mail:info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp

☆お電話・FAX・メールいずれかの方法でお申し込みください。お問い合わせもお気軽にどうぞ。

新型コロナウイルス感染防止対策について

- ・最大入場者数を **18名**までとし、**会場の消毒**及び**定期的な換気**を徹底します
- ・来場者には**マスクを配布**し、**手指の消毒**をしていただきます
- ・会場には行けないけれど講演会を視聴したい方には後日 DVD を郵送します。(※参加費は発生します)

詳しくはかけはしホームページ(<http://www.kakehashi-tomoni.org/>)をご覧ください

小川 肇 (おがわ はじめ)

経歴

- 1965年3月 少林寺拳法武道専門学校研究科卒業
- 1976年4月 少林寺拳法武道専門学校教員 (現名誉教員)
- 2001年4月 社会福祉法人 県央福社会 後援会会長就任 (現在に至る)
- 2003年4月 横浜地方法務局人権擁護委員 就任 (現在に至る)
- 2008年12月 金剛禅総本山少林寺 少法師
- 2013年4月 神奈川県少林寺拳法連盟理事長就任 (現顧問兼任専務理事)
- 2014年1月 NPO 法人成年後見センターかけはし 代表理事就任 (現在に至る)
-
- 2018年4月 2018年度(独法)福祉医療機構 社会福祉振興助成事業(WAM 助成)に採択される。申請代表者は代表理事 小川 肇。事業名は「知的障害者・発達障害者の地域後見推進事業」。助成金額は2,497,000円。
- 2019年4月 2019年度(独法)福祉医療機構 社会福祉振興助成事業(WAM 助成)に採択される。申請代表者は代表理事 小川 肇。事業名は「知的障害・発達障害者が地域で生き生きとした人生を送る地域後見事業」。助成金額は3,298,000円。
- 2020年4月 2020年度(独法)福祉医療機構 社会福祉振興助成事業(WAM 助成)に採択される。申請代表者は代表理事 小川 肇。事業名は「知的・発達障害者が地域で安心して、生き生きとした人生を送る地域後見事業」。助成金額は3,990,000円。

現在に至る

他の武道関係の要職

横浜市武道連絡協議会 会長

横浜市空手連盟 顧問

NPO 法人成年後見センターかけはし 「記念基調講演」

少林寺拳法から学ぶ自らの生き方について

少林寺拳法 正範士八段・少法師 小川 肇

しよほうむじょう 諸法無常

この世の中で止めるものは何もない。常にあらゆるものが変化流動している。またこの世の中で永速なるものも何もない。生じたものは変化し必ず減するのである。つまりこれを人間の生き方に合わせると「無常なるものは苦なり、無我なるも苦なり。故に一切は皆苦なり」と教示するものである。

しよほうむが 諸法無我

本来人間はエゴ的な動物であり、ある意味エゴなしには生きることが出来ない。故に自分がこの世で一番誰よりも愛おしいものである。言ってみれば自分以外は少しも愛おしくないのである。

然し乍らこの一番愛おしい自分も他の存在なしには一時も生きられない現実がそこにある。そこでこの「^{ことわり}理」が「^{わかる}覚」と「^{じたきょうらく}自他共楽」の生き方の心理が^み観える筈である。

しんしんいちによ 身心一如

心とは体のことで体とは実は心のことである。心の迷い悩み苦しみから解放するには「心」、精神ではできない。即ち体は物と考え心は精神と考えるのは錯覚に過ぎない。故に体が心であり心が体であるからこそ体の変化に依って悩み苦しみを滅し心の安定をもって体を保持することが出来るのである。

そこで少林寺拳法の行法は「^{ちんこんぎょう}鎮魂行」「^{えつきんぎょう}易筋行」の調和した行をもって「^{しんしんいちによ}身心一如」
「^{ぎょうねんいっち}行念一致」を表すことが出来る。以って「忘れろ、逃げるな、楽しめ」なのである。

NPO 法人成年後見センターかけはし 「記念基調講演」

いっさいがいく 一切皆苦

三苦「^{くく}苦苦」「^{かい}壊苦」「^{ぎょう}行苦」、四苦「^{しょうろうびょうし}生老病死」「^{あいべつりく}愛別離苦」「^{おんぞうえく}怨憎得苦」「^{ふきゆうえく}不求得苦」
「^{ごおんじょうく}五蘊盛苦」これらは生きている限り誰もが逃れることが出来ないものである。

依って苦は必然であり普遍であるからこれを覚り、この在り方が喜び感動の源泉であることも知るべきである。

ひん しん ち 貧、瞋、痴

「貧」とは何でも自分に有益なるものを限りなく我が物にしようとするその意識と行為。
「瞋」とは自分の想う通りにならないことへの不満を持ちこの事柄に対する怒りの尽きる
ことがないことである。

「痴」とは何事も自分だけを優先した物事を考えてその行動をすることである。

こうこふに 公個不二

人はそれぞれに我が身の幸せを希求する生き物である。
確かに自我は生き物の本能であり、普遍性をもった考え方でもある。然し乍ら「個」の豊
かさ、自己の権利、自己の自由、そして自己を中心として執れすぎた生き方は、
「公」の存在を忘れてしまうものである。即ち「個」の豊かさの享受は、「公」の安定した
受け皿があってこそ成り立つものであることを認識しなければならない。
故に「公個不二」は必然であることを理解しなければならない。

そくいん 惻隱の情

枯れゆくものに哀れを感じ、悩める人に心動き、そこに手を差し伸べることのできる
人、そんな人を惻隱の情をもった人という。人は皆本来自然的にこんな心の素地を持
ち合わせているのであるが、これが出来る人、出来ない人、人、人、人の質にある。

NPO 法人成年後見センターかけはし 「記念基調講演」

今今今を生きる

人生、喜び楽しみに限りなく嬉しい出来事の連続、こんな出逢いの人も有り、更に思いもよらぬ僥倖^{ぎょうこう}が舞い込むこともある。

然し乍ら人は生きてくうえでそれぞれに悲しみ、苦しみ、悩み、迷い、抱ききれない不幸に悲嘆の日々を送る人もある。こんな時「諦めず」に今今今をよしとしていくことが生きる^{すべ}全である。

理想、妥協、曖昧、混沌、諦め

人は皆、理想をもちその理想を求め時間と空間を生きているが現実には理想の下に妥協を以て時間が過ぎていく。然しこの理想と妥協とは曖昧と混沌、そして諦めがない混ぜになった生き方に耐えて今日もみな生きているのである。

禍福は^{あざな}糾える縄の如し

「禍福は糾える縄の如し」という諺がある。人生幸せで良い出来事ばかりでなく、時として艱難辛苦、絶望の淵に立たされることもあり、また僥倖を振り込むこともある。即ち禍福は縁起の結果であり法の下で起きることであるので艱難を^{かわ}躲す手段はないのである。ならばその時々^{時々}の事象に対し今を是として力を尽くすしかないのである。

死という事柄

「止」という事柄に対する概念を認識している生物は人間以外にない。
この死の在り方、その死の発生後の死の世界を求めるのは人間だけである。この死生観から苦がうまれ恐怖心が発生して時として今が定まらなくなるのである。この死生観は誰も解らない死後を確認できる人は一人もいない訳である。ならば「今、今、今」を全力で生きるしかないのである。

NPO 法人成年後見センターかけはし 「記念基調講演」

身心一如

物心二元論とは物事に依る「分、別、智」に他ならない。即ち身体と精神、心は別々の存在のようで実は一体的な働きの関係を持っている。故にまず「かたち」を整えよと言うことであり、「形」「相^{すがた}」「物」が調御し整うときに「心」「精神」が整うのである。

吉田兼好

兼好法師とも言われた人である。随筆「徒然草」を表した人である。その訓^{おし}えに「人はいつまでも生き通す習わしだったら人生は味わいの無いものになるだろう。無常で限りがあるからこそ人生には味わいが深いのだ」とこのように人の生き方を解いている。

一休宗純

禅僧の一休はこんなことを言っている。「明日あると思、う心にほだされて今日も空しく日を送るなり」即ち二度とない今日、今、一つしかない限りある「命」ならば今の命を精いっぱい生きることこそ、人として唯一無二の在り方であると承知すべきである。

鴨長明

鴨長明の「方丈記」に「ゆく川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたはかつ消えかつ結びて久しくとゞまることなし。世の中にある人とすみかとまたかくの如し」とこの世の無常を説いている。

NPO 法人成年後見センターかけはし
「記念基調講演」



金剛禅総本山少林寺 (香川県多度津町)



少林寺ロゴマーク



武道シーン



初代師家 宗 道臣(開祖)

NPO 法人成年後見センターかけはし
「記念基調講演」



禅宗の祖師・達磨大師



金剛神（仁王尊）



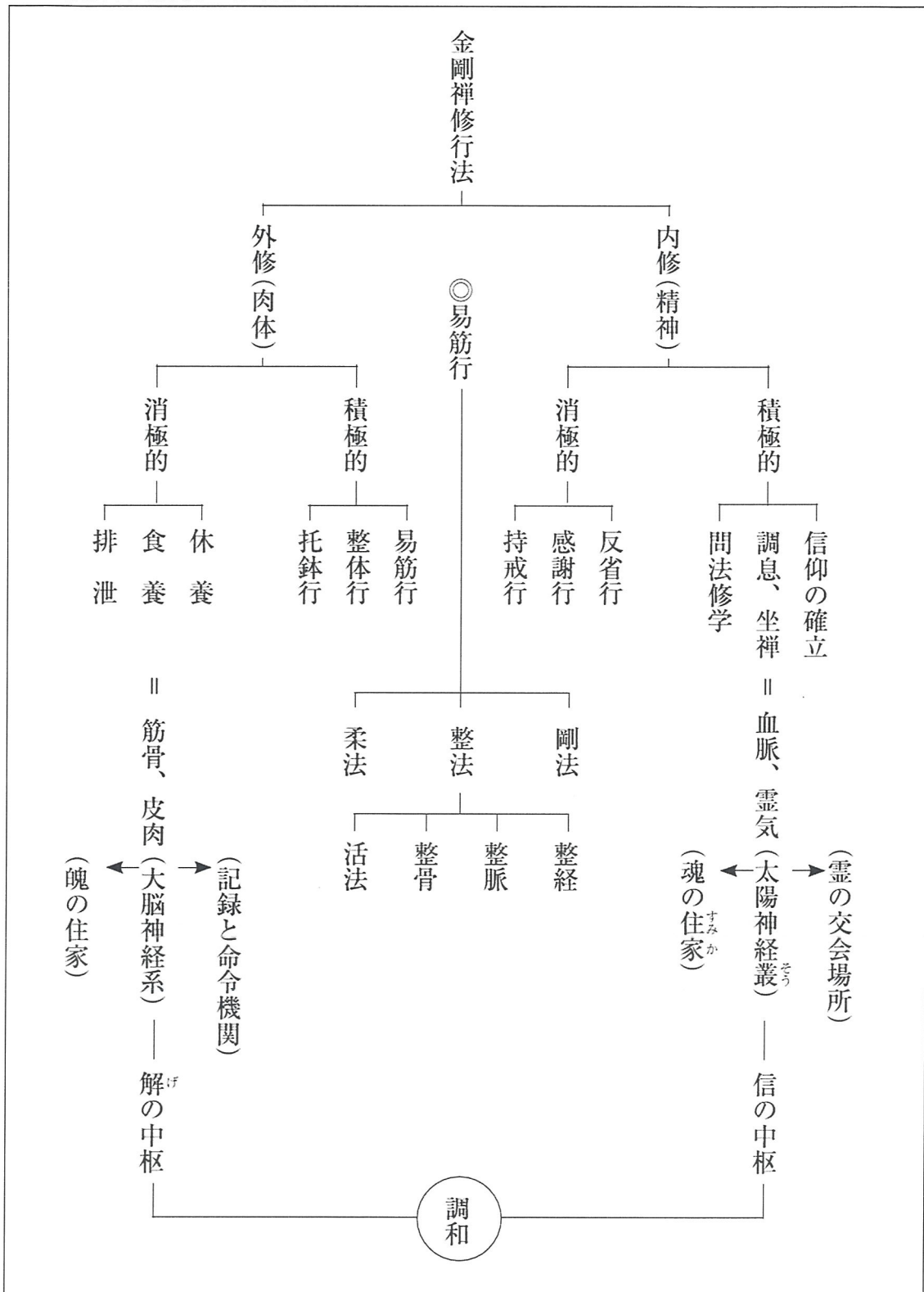
鎮魂行



易筋行

NPO 法人成年後見センターかけはし
「記念基調講演」

□金剛禪門信徒の修行法



[参考文献]

1. 一般社団法人 SHORINJI KENPO UNITY、金剛禪 読本、第1版 2011年3月

NPO 法人成年後見センターかけはし
「記念基調講演」

	
<p>吉田兼好¹⁾</p>	<p>鴨長明²⁾</p>
	
<p>一休宗純 紙本淡彩一休和尚像 (重文)³⁾</p>	<p>一休宗純像 (奈良国立博物館所蔵)</p>

引用文献

1. 郷土史研究 金沢八景に住んでいた吉田兼好、神奈川県立横須賀高校の同窓生ホームページ
2. 日本の古本屋、<https://www.kosho.or.jp/>
3. 国指定文化財等データベース、kumisei.bunka.go.jp